

【わ】 わが身のことと思え、対岸の火事、いずれは…

日本列島は災害列島とも言われ、地表が変動する要素が集積されていることから、自然災害との遭遇を避けることはできません。そして、災害はどこに何が起きるのかは大体がわかっていますので、ハザードマップで確認することはできます。問題は、災害時にどのような行動ができるかです。安全に避難することや、被害の復旧をどうするのかなどを見据えて、災害時にそれをベースに適切に実施することが一人一人に求められています。これらのことを他人任せや、行政に頼るといことは大変難しいことです。行政は公助という役目がありますし、他の人も同じ被害者ですので頼りにはなりません。そこで、日ごろからどうすべきか、避難訓練もその一つですが、幸か不幸かわが国には、様々な災害が起きてニュースとして報道されます。その事例を参考に自分のこととしてシュミレーションするという方法があります。地域などでそのような学習を積み重ね、問題点や課題を見つけて修正していくという積み重ねが有効であると思います。

【か】 活断層、活火山の活には不安、気がかりが…

“活”にはいきいきと活動するという意味ですが、直ぐにでも何か起きるように思えます。実際には、活動というか変化への準備が進行しているという事で、何かのきっかけがあれば変動するという事だと思います。活断層も活火山も地球の活動の中に組み込まれている現象ですので、周期性や大きな変化があればそれに連動した動きになることは十分考えられます。東日本大震災のような規模の地震は日本列島を動かすほどでしたが、列島の活断層の一部を活性化したことは確実ですし、火山活動への影響も少なからずあったという報告もあります。言い換えれば、準備完了、指示待ちのようなスタンバイだといってもよいのかもしれません。110もの活火山が日本列島には指定されている一方で、活断層は潜在化しているものも多数あると考えられていますので、寝た子が起きないことを願っています。

【よ】 予(あらかじめ)は難しくても、推測はできるかもしれない

災害で最も知りたいのは、いつ起きるのかだと思いますが、いまのところごく一部のものしかその願いはかないません。その一部とは、地すべりなどで亀裂が発生していて、それがどう進展していつごろ全体が滑り出すのかということを観測機器によって予測することです。これは、これまでも多数の事例があります。しかし、ほとんどの自然災害はいつ起きるのかを事前に知ることはできませんので、その突発性に対していかに対応するのが大事になります。土砂災害はどこに何が起きやすいか、ということはおおむね予測できますので、ハザードマップ等で確認できます。また、地震の被害もどんなところで、どんな被害になるのかも経験知から分かっています。